

区民協議会施設見学研修報告

令和5年1月11日（水） 横浜市市民防災センターを見学

区民協議会では、災害時の避難体験をするべく24名にて横浜市市民防災センターを見学しました。当日の見学体験内容をお知らせします。

① 水災害体験 防水服に着替えて水の中に入り、以下の体験をしました。

- ・深さ40cmの水の中でドアを開けてみる

男性でもドアを開けるのはなかなか難しい。深さ40cmで65kg、深さ50cmでは100kgの力がかかるという。実際に浸水があった場合、水が深くなれば住居や車からドアを開けて外に避難するのが困難であることを実感した。

- ・水流の中を歩く

20cmくらいの深さの水流の中を、まず流れに逆らって歩き、次に方向転換して歩く。この程度の深さでも流れに逆らうと足が取られそうになり、特に向きを変えるために横から流れを受けると転倒しそうになる。歩幅を小さくして歩くことが大事との説明に納得した。高齢者は転倒しやすく、乳幼児を抱いての避難も特に注意が必要とのこと。



② 防災シアター

関東付近はほぼ200年に一度巨大地震に見舞われており、今年9月で関東大震災から100年になる。「大地震そのとき」というテーマでマグニチュード8.1の巨大地震に横浜が見舞われたという想定映像が流れた。起こりうる状況と被害は、建物の倒壊・ビルからの落下物・丘陵部での土砂災害・浸水（発生から60分後横浜駅周辺）・長周期地震動・火災・断水・停電・液状化現象・帰宅困難・余震であり、日頃の備えが必要と痛感した。

③ 地震シュミレーター

関東大震災級の震度7の揺れを経験。住宅の中では立ってられない状況になり家具が転倒し様々な物が床に散乱する。ストーブなどから炎が出る。外出先ではビルの倒壊、看板やガラス



の散乱など。交通機関は不通、道路渋滞、火災の発生、帰宅困難などで大混乱に。いずれもその状況の映像が映し出され臨場感あふれる体験だった。

④ 消火シュミレーションによる消火体験



火災発生時の行動

1. 「火事だー」と大声で周囲に知らせる
2. 消火器で初期消火 ピンを抜く→ホースの口を持ち火元に向ける→レバーを強く振り噴射、注意事項として消火器は炎の下部に向ける
3. 炎が背丈以上になったら消火器での消火は諦め、

「火事だ」と知らせながらその場を離れる、貴重品などを取りに家の中に戻らない

⑤ 煙の中の避難体験

煙は水平方向より垂直方向へ早く進むので、姿勢を低くして煙を吸い込まないように口元などを布で覆い、壁伝いにゆっくり進む。急ぐと呼吸回数が増えより多く煙を吸う事になる。煙で周囲が見えにくくなるが、出口は壁に沿って設置されている場合が多いので、壁伝いに進むことで避難経路にたどり着きやすくなる。

⑥ 減災トレーニングルーム

緊急地震速報が出された後、家の中でいかに行動するかの体験。

取りあえずは身を守る（机やテーブルの下に入るなど）

安否の確認（怪我はないかなど）

火元の確認（ガスの元栓・ストーブ・ブレーカーを落とす）、初期消火

安全を確認して避難

見学を終え、大変貴重な体験をすることができました。災害はいつ起きるかわからないので日頃の備えが大切と改めて認識しました。取りあえずは自助、日頃から知識を広め、家の中の点検や必要物品の備えを怠らないようにしたいです。地域での助け合い、共助がしっかりできるよう住民が日頃隣近所とのコミュニケーションを大切にし、そのつながりから自治会町内会等地域の円滑な防災活動に結びつくようにしていけたらと思います。

